総 務 産 業 常 任 委 員 会（総務・産業G）

期　日　令和７年　２月６日（木）
時　間　午　前　　９：００
場　所　議　場

○議事日程

１．委員長あいさつ
２．町長あいさつ
３．流雪溝施設における設備の不具合報告について
４．金原地区簡易水道における漏水事案について
５．その他

○出席委員（９名）

委員長７番	村　上　忠　弘　君	副委員長６番	岸　　徹　也　君
２番	岸　　雅　子　君	４番	上　村　忠　君
５番	内ケ島祐一　君	８番	川　上　絹　子　君
９番	向　井　孝　一　君	１０番	村　瀬　廣　君
１１番	日　置　紳　一　君	（参与）	芳　賀　芳　夫　君

○欠席委員（２名）

１番	苅　屋　泰　裕　君	３番	矢　内　義　則　君

○出席説明員

町　　長	中　島　光　弘　君
副　町　長	森　　朋　彦　君
総務財政課長	山　田　　薫　君
総務財政課長補佐	竹　内　佳　生　君
公営施設課長	杉　山　輝　希　君
公営施設課長補佐	山　田　真　也　君

○出席事務局職員

議会事務局長	伊　藤　靖　徳　君
議会事務局主事	海　津　侑　也　君

開　議　９：００

◎委員長あいさつ

○委員長（村上忠弘君）　皆さんおはようございます。一昨日より低気圧の影響によってですね、非常に暴風雪が続いております。そんな悪天候の中御出席ありがとうございます。実は理事者側よりですね、急を要する事案が発生したということで、常任委員会を開催してほしいという申出がありましたので、本日の常任委員会という運びになりました。ひとつ皆さんよろしくお願いいたします。

◎町長あいさつ

○委員長（村上忠弘君）　町長が出席されておりますので、会議に先立ち、ご挨拶をお願いいたします。

町長、中島君。

○町長（中島光弘君）　皆さんおはようございます。委員長からもお話がありましたけども悪天候の折ですね、総務産業常任委員会の開催の御配慮頂きまして心から感謝を申し上げます。さて、利用開始以来32年を経過いたしました流雪溝施設の設備であります大型ポンプに不具合が2月2日日曜日発生し、専門業者による現状把握と原因究明等について、公営施設課を通じ対応してまいりましたが、その結果、修繕については、今シーズンの利用が困難であることが判明いたしましたので、経過及び以後の除雪体制について報告をさせていただきます。なおこの間、流雪溝管理運営協議会の皆様への御連絡や沿線住民の皆様への御理解とお願いなど、流雪溝放送設備等も通じ周知をいたしております。今後の除雪体制や予算措置、負担率でございますけれども国が68.41％、道が21.85％、町は9.74％などお願いすることとなります。函館開発建設部八雲道路事務所及び、旧土現であります函館建設管理部今金出張所には、現況の報告と今後の予算措置等の対応について私からもお願いをしております。また、昨日明け方の午前3時に金原地区の貯水池で水位低下による警報が鳴り、公営施設課で初期対応をし、午前8時から対策本部を設置し、臨時の3役課長会議を開催し、漏水箇所の特定、貯水池への消防タンク車による給水、影響地区16戸へ1戸当たりポリタンク18リットル2つ、飲料水500ミリリットル10本を配布いたしました。配布に当たっては、まず課長、事務局長、局長職によるローテーションで対応をしております。結果、暴風雪の中早朝から、公営施設課職員と業者で漏水箇所の特定業務に当たっておりましたが、午後2時50分、対策本部に、漏水箇所発見のお知らせが届きました。以後は修繕工事に伴う断水等の協力をお願いすることもあります。それで

は、流雪溝施設整備不具合の詳細と、当初議案としてお願いしておりませんでしたが、緊急事案であります金原地区漏水事案の直近状況報告について、御理解を頂き、あわせて公営施設課長、杉山課長より御報告をいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎開会の宣言

○委員長（村上忠弘君）　苅屋君、矢内君より欠席の届出があります。ただいまの出席委員は９名で、定足数に達しておりますので、総務産業常任委員会を開会いたします。

◎流雪溝施設における設備の不具合報告について

○委員長（村上忠弘君）　流雪溝施設における設備の不具合報告について、金原地区簡易水道における漏水事案についてを一括議題といたします。

理事者より説明をお願いいたします。

公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　（公営施設課長朗読説明、記載省略）

○委員長（村上忠弘君）　説明が終わりました。初めに、流雪溝施設における設備の不具合報告について、質疑を行います。ございませんか。

向井君。

○９番（向井孝一君）　この不具合のポンプについては修理すれば直るということなんですけども、聞くと 30 年経過したポンプっていうことで、新たに変えるとすれば、おおよそどれぐらいの予算かかるんでしょう。

○委員長（村上忠弘君）　公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　現在は修理という方向で進めております。ただ、これ、万が一ですね、修繕に出したときに、復旧不能、買換えが必要ということもあろうかということで、業者のほうには、予算的な見積りを依頼しているところでございますけども、作りこみの特殊なポンプでありますので、ちょっと日数もかかるだろうと思っております。修繕に関しても、まだまだ中ですね、もう分解してみないと本当に分からないので、修繕自体についてもどれくらいの予算がかかるか、まだ見込めない状態でおりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（村上忠弘君）　よろしいですか。他にございませんか。

岸徹也君。

○６番（岸　徹也君）　今課長のほうからもろもろ説明も頂いてますので、理解はするところなんですけれども、今回のような事案の再発防止に向けての部分なんですけど当然、定期的な点検、もしくはメンテナンス、こういったもの

はやられてるんだと思いますけれども、そこら辺の頻度、そういったものはまず問題なかったのか、今後、そういうものも含めて強化する必要があるのか、その辺りちょっとお聞かせ頂きたいと思います。

○委員長（村上忠弘君）　公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　施設全体、全ての点検については、稼働前に必ず実施をしております。電気、配線、それからこういったポンプもそうですし、建屋全部含めて、それぞれ専門業者による点検を行っているところでございます。当然、その点検の所見の中で、交換が必要だ、あるいは、この後、大きなトラブルになる可能性があるので早期の対応というようなコメントも頂いたりしておりますので、そういったものについては、すぐに対応しているというのが実態でございます。で、今回のところはちょっと予見ができなかった事象ということで、本当に業者のほうも、こういったポンプの中が発火燃焼するという事例は、ベテランの方もいらして50年以上仕事してるけど初めて見たと、報告も聞いたことがないというようなことで、今回に関してはいろんな意味で予見が難しかったのかなというふうに受け止めをしております。今議員御指摘のところについては、冒頭申し上げましたが毎年、シーズン前に必ず点検をしております。こういった事象があって、これ以上何ができるのかというところも、非常に難しいところがありますけども、大きなトラブル、長期にわたるような稼働不能状態にならないようにですね、しっかりと、管理に努めてまいりたいと思っておりますので、その点で御理解を頂ければと思います。

○委員長（村上忠弘君）　岸哲也君。

○６番（岸　徹也君）　分かりました。通常定期的に検査をされてるんでしょうし、そこら辺は理解もするところではあります。こういった事案は、やっぱり起きないに越したことがないわけですけれども実際に起きてしまった。ここで、当然行政側としても、今後の対応策、また来シーズンに向けての準備という部分、あとは除排雪に関しても、様々な手を打つといった方法というのは当然とられていくというところで理解をしているところなんですけれども、こういうことは当然、繰り返しますけど無いに越したことはないわけだが、しかし起きてしまった。当然住民の方も困惑してる部分あると思いますけれどもこういった部分、要は大変な話ではあるがポジティブに捉える、考えることも私はできると思うんですね。大変ではあるんですけれども、ひとつここは運営の協議会ですか、そこを通じて、何ていうんすかね、地域とのこの連帯っていうところでしょうか、助け合いという部分なんでしょうか、それは行政と町民との連携というものを深める、これは一つの契機にもなるのかなと。当然無いに越したことはない、通常運転、ポンプができれば問題ないんですけれどもこういうふうになった以上、そういった部分も、町民の方にも協力をしていただ

きながら、この難局を乗り越えていくという部分、これは公営施設課も当然町長もそういうお考えあると思いますし、運営協議会に対して、何とか乗り越えていただきたいというような声掛け、また行政としてできる範囲の支援、こういったお話をきっとされてるんだと思いますけどその辺りっていうのは何かあれば、お知らせ頂きたいと思います。

○委員長（村上忠弘君）　公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　事象の発生からこれまでいろいろと流雪溝の委員さん、あるいは地域住民の方に状況についてお伝えをしております。それからもう今シーズン動かせないということも、伝わっているというふうに認識をしております。そういった中で、沿線の方あるいは地域の方として、機械を持ってるので、本当に困ったときあったら遠慮なく言ってくれと、お手伝いできるよう、雪を押し込む場所も確保できてるから使ってくれ、そういった声も、何人からも頂いております。非常にありがたいと思っております。それから、この後ちょっとまだ開催日は未定でありますけども、臨時的に運営委員会のほうも開催して、今報告したような声も含めて、集約しながらですね、地域一体となって、本当に御迷惑かけているところでありますけども、この難局を皆さんの力も借りながら、何とか乗り切っていきたいということで考えてございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（村上忠弘君）　岸哲也君。

○６番（岸　徹也君）　分かりました。何とかそこで乗り越えていただきたいと、切に願うばかりなんですけど、今度除雪作業の負担、これが今度増加をするわけです。これは町民の負担もそうですし、除雪の作業員もやはり負担が増える可能性が十分考えられる。そうなったときには何が第 1 に私が過るかというと、除雪の効率が低下しないか、また、何ていうんですかね、疲労による事故、怪我、こういったリスクが高まるんではないかというのが一つ懸念として持ってます。除雪作業員も人数も限られてます。しかも、また、何て言うんすか、仕事の量が増えるということが予想の中で、そういった作業員に対しての安全対策、この部分をどう考えられているのかお知らせ頂きたい。

○委員長（村上忠弘君）　公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　まず除雪作業の体制につきましては、それぞれ国道は開発局、道道は北海道、町道に関しては今金町ということで、区分けができてます。それぞれの所管で委託をかけたり、あるいは今金町であれば、直営の作業員を使ってというような体制の中で、この難局を何とか乗り切っていきたいということでやっております。そういった中で排雪作業だとかも、相当増えてきてますし、昨日もですね、日が暮れるぐらいまで、うちの直営の作業員も、作業していただいております。逐一ですね、作業員とも話合いをしな

がら、とにかく状況を確認しながら、例えばこういうふうに作業してくれという指示をして、実際に現地で動いてみたら、効率が悪い、あるいは危険だ、そういった声もですね、すぐに受けて、やり方を変えていきましょう、いかに時短できますか、安全確保できますかということを何日かしかまだ経ってませんけども、この間の中でも毎日のように、協議、お話合いを行っているところであります。なんせ人員についても急に増やすことはできませんし、除雪関係について業者にお願いするというのも一つなんですけども、業者のほうも限られております。手いっぱいの中でありますので、人員や、重機の台数だとかをなかなか急激に増やして対応するということはできませんので、うちの直営の人夫もそうですし、各町内の業者の方もそうですけども、負担感は増しているのは間違いないと思っております。今御指摘のあったように、安全対策、それから、疲労困憊して事故が起きるだとか、そういったことのないようにはですね、十分配慮をしていきたいと思っております。たまたま昨日から暴風雪ということで、明日ぐらいまで、ちょっとピークが長引いてるということでは、もう職員も疲れてきてるのは我々も把握はしておりますけども、職員の安全、それから身体の状態の確保ということも図りつつも、やはり住民の方の生活を守るということもあわせて行っていかなければなりませんので、いろいろと声を聞きながらですね、その辺は配慮しながら進めていきたいと思っておりますので御理解頂ければと思います。

○委員長（村上忠弘君）　岸哲也君。

○６番（岸　徹也君）　分かりました。くれぐれも本当安全には気をつけて行っていただきたいなというところと、最後になると思いますけど、ちょっと続けて言います。私がちょっと心配してる部分があるのはやっぱり道路幅、大分狭くなってます。これは国道も町道も。排雪もこれから進むんでしょうけれども、そのときの緊急車両、または配送の車両、これは民間ですけれど、こういったものの通行に支障が出ないか。緊急車両はもう当然のことです。何かあったときにはもうやはりすぐ、走れなければなりません。配送というものはやはり、様々物資を運ぶという部分において、流通という部分において、この町の経済に直結する部分でもあります。こういったところは特に市街地の部分でありますけれども、様々なルートは市街地ですから、あるんですけれども、できるだけその緊急車両、配送車両がスムーズに通れるような排雪、除雪、これに何とかこの少ない人員で対応していただければなというところと、もう一つなんですけれども、こういったことをこの契機にといいますか、きっかけに、そもそもこの流雪溝のシステムを維持するというところが、どうなんだと。本当に必要なのかと。必要なんでしょう。これは当然、必要なんだと思いますし、簡単にそれをね、どうこうっていうのはできないかもしれないが協議をする、

例えば難局である程度乗り越えられるような動き、こういったものが確立しつつ、何か見えるようなものがあれば、今後流雪溝というものをどうするかということを協議をするということも私はあり得る話だと思います。たしか年間でもちょっと間違ってたら申し訳ないですけど2000万ほど経費もかかっていると理解してます。間違ってたら、指摘してください。こういった部分で、同じ例えば経費をかける、もしくは安価に済む方法が、確立できるのであれば、こういうことも一つ、テーブルに上げて協議をするということも私は必要ではないかなというふうに思います。最後です。緊急車両の話と、この流雪溝自体の今後っていう部分のお話、これは課長の答弁でも当然いいですし、町長からも最後、流雪溝という部分において、お話があればお願いいたします。

○委員長（村上忠弘君）　公営施設課長、杉山君。

○公営施設課長（杉山輝希君）　まず1点目の緊急車両や、配送車の通行についての部分でございますけども、当然、緊急車両については最優先して通行願うというふうになると思いますので、除雪作業、排雪作業の途中であっても、それは安全を確保しつつ、緊急車両の通行を優先するということで常日頃行っているところでございます。それから、配送車両については、当然生活を守る重要なサービスでありますので、逆に言うと、そういった車両も含め、町民の方が安心して通行できるように除排雪をしてるというところがまず入り口にあるんではないかと思っております。ですので、そういった事情については、ある程度御理解を頂いて、例えば排雪が今終わるまで、一時この路線回らないだとか、ドライバードライバーでそれぞれ判断はしていただいてると思いますけども、これは一定程度御理解を頂けなければ、大前提となる部分が確保できないというふうに考えてございます。ただですね、本当に緊急を要する、緊急車両ではないですけども、今すぐにとか、いろんなことがあると思います。そういったところは、ドライバーの声も聞きながらですね、できる対応はしてまいりたいと思っておりますので、御理解を頂きたいと思います。それから流雪溝の部分についてでございますけども、予算上の流雪溝の管理にかかる予算については、年間3000万円ちょっとぐらいでございます。総経費として見ておりますが、突発的なことが起きれば、さらに増減するということで御理解を頂きたいと思います。それから今日の状況を見ていただいても分かるとおり、やはり、今金町にとってこの流雪溝というのは、町民の皆さんの負担も相当大きいのは事実でありますけども、その結果として、本当に交通環境安全環境が確保できる、できている状態でありますし、流雪溝は稼働したときとしてないとき、今日の状況を見ても、町なか相当違います。そういう意味では、これはもう、先ほども申し上げましたが町民の方の御努力と御理解があってのことでありますけども、今金町にとって、流雪溝の効果というものは絶大なも

のというふうに考えてございます。町道だけで言ってもですね、この流雪溝がなければ、相当な除排雪の費用負担になると思ってます。今、幾らかかるか、そういったところについては、ちょっと試算できませんけども、相当な額になっていくだろうというふうに考えてございます。費用対効果のところについても今後ですね、検討していかなければなりませんし、住民の方の負担というものも、いろいろ考えながら、流雪溝の維持というものは当然進めているつもりでありますし、運営委員会等々通じながらも、声を頂いてます。やはり不在になった住宅がある、ここをどうしてくれるんだとか、いろんな御意見頂きながら、町としても対応可能なところについては、対応しながら、当面は流雪溝の運営を続けていきたいというふうに思っておりますが、やはり長期的なビジョンというものも、この後、当然考えていかなければならないと思っておりますので、いろんな声を頂きながら、費用的なものも検討しながらですね、今後の課題として、取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（村上忠弘君）　町長どうですか、今後については。

○町長（中島光弘君）　今の説明に変わりないです。

○委員長（村上忠弘君）　他にございませんか。

岸雅子君。

○２番（岸　雅子君）　防災無線についてなんですけれども、今回、たまたま担当課の課長さんいらっしゃいませんけれども、今回たまたまこの流雪溝のことと、暴風雪についての注意喚起の無線が定時以外に何度も流れてました。ちょっと以前からも思ってはいたんですけれども、この音声なんですが、自動音声ということで、打込みの音声ですけれども、ちょっと違和感が私はあるなと思って、それは致し方ないと思うんですけども、防災に関してこの緊急の無線に関しては、担当課の方が実際の声で、緊急のことをお話ししていただいたほうが、ちょっとこう感じ方も違いますし、緊急なんだなっていう耳の傾け方も違うと思うので、それちょっとこう考えていただけないかなとは思っていたところなんですけれども、何かのちょっと記事で読んだことがあって、人工的な音声、AI の加工の音声なんかは音としては入ってきてそのときは入るんですけど、記憶に残らないという、そういうちょっと調べもあるということを見たときに、もしかして何となくこう定時で流れているものも、ずっと常になんか言ってるなっていうのはあっても、何だったかなって、残らなかったりすることもあるなと思って緊急のことはちょっとやっぱり緊急時ですということで、人の声で、無線を流していただいたほうが、より町民の方にはお知らせの度合いが違うと思うので、その辺、今ちょっとこの私の質問で答えていただくことができますか。

○委員長（村上忠弘君）　副町長、森君。
○副町長（森　朋彦君）　ありがとうございます。今の確かに人口の音声を使っておりますけれども、多分イントネーションですとか、発音の具合がですね、通常私たちが話す様子とは、異なって聞こえることがあるんだというふうに思います。以前に、実際人間の声で流したこともあるわけですけれども、例えばですけど声質によって、逆に聞き取りづらいとか、ということも実はあったりしたこともあるんですね。なのでその辺りも少しこう、考慮しなければいけないというふうに思いますしそれから今おっしゃっていただいたように、本当に緊急事態なったときには、やはりこう肉声で、その状況を生で伝えるっていうことは、やはりこう、それぞれの受け取る側の皆さんに、十分、感覚的にもですね、そういうことが伝わるということはよく分かりますので、今回のケースが例えばそういうことにつながるかどうかはちょっと別にしましてですね、いろんなケースを想定をしながらですね、今後防災行政無線の運用のほうは一考することが必要かなというふうに今お話を聞いて思いましたので、まず御意見として承らせていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。
○委員長（村上忠弘君）　よろしいですか。他にございませんか。
（「なし」の声あり）

◎金原地区簡易水道における漏水事案について
○委員長（村上忠弘君）　ないようですので、次に、金原地区簡易水道施設の漏水事案についての質疑を行います。ありませんか。
（「なし」の声あり）
○委員長（村上忠弘君）　ないようですのでこれで質疑を終わります。

◎その他
○委員長（村上忠弘君）　それでは最後にその他を議題といたします。
理事者のほうからございませんか。
（「なし」の声あり）
○委員長（村上忠弘君）　委員の皆様から何かございませんか。
○６番（岸　徹也君）　ちょっとすいません、今日本代表で、スキーのね、選ばれた子がいたり、また町内出身者で、高校は小樽なんだけれど、その子はね、全国大会に選ばれた、こういう子もいるわけですよ。町の広報でね、当然そういう紹介はあるかもしれないけど、垂れ幕でもかけてね、少しそういう応援してるんだっていう姿勢を見せるのは、明るい話題でいいと思うんですけど。今委員長に、ちょっと確認しながら。

○委員長（村上忠弘君）　分かりました。そしたら正式に。
○６番（岸　徹也君）　今、委員長から許可もらったんで、多分話の中身は分かったと思いますんでね、今すぐどうこうっていう話じゃないけれども町長としての何かそういった明るい話題もあるので、ぜひそういう PR、役場の外壁にね、垂れ幕とかそういうものも、検討したらどうですかっていうちょっとお話でしたけどいかがでしょうか。
○委員長（村上忠弘君）　町長、中島君。
○町長（中島光弘君）　いろんな分野でね、ときには、世界規模の大会で日本代表になるとか、それから国体で北海道の代表になるとかいろんなパターンがあるというふうに思います。情報ってのは入ってこないとなかなかつかめないということもありますので基本的には、子供たちの分野については教育委員会ですから、教育委員会でしっかりアンテナを張りながら、また、学校だとかいろんな団体が察知したんであればその状況を教えていただくというのが 1 番かなというふうに思います。昨日ですね、そのスキーの韓国の技術系の世界大会のほうは来てくれましたので、ただ広報ってすぐ間に合わないもんですから、それは町長のホームページのほうの町長の部屋というか、そういうところで発信をさせていただいてますが、例えば、垂れ幕も一つの方法だと思いますので、その辺多分どういう基準で受け止めてどう流すかっていうのは一定の基準も持ちたいなというふうに思いますのと、それから、いいと思うんですね、いろんな情報が来て、上げれない場合もあると思うんですけども、そういう情報がしっかり入るように、その体制もしっかりしたほうがいいかなというふうに思っておりますので、町として、子供たちの活動を支えておりますし、町外出た子供たちもいつまでも今金は応援団だよということも伝えておりますので、そういう意味では地元の人にそういう活躍をしている、活躍をする姿を何かの形で周知をしてですね、日頃の励みにしていただくというのは大切なことでありますので、副町長も今お話聞きましたので、関係課と一度協議をして対応してまいりたいなと思います。
○委員長（村上忠弘君）　そのような対応でってことでよろしいですか。
　他にございませんか。

◎閉会の宣告

○委員長（村上忠弘君）　ないようですのでこれをもちまして本日の総務産業常任委員会を終わります。御協力ありがとうございました。

閉会　９：４３